



国際通貨基金（IMF）アジア太平洋地域事務所 (OAP) Seminar

ビジネスセクターの活性化に向けて

世界的な景気後退以降、日本の企業部門はますます受身になっています。老朽設備の更新は遅れ、円安の活用に輸出企業は慎重であり、研究開発投資の回復は遅れています。多くの企業は堅調で、昨年は収益が改善し、企業貯蓄は大きく、債務は管理可能な水準にあることは確かです。しかし、堅実な生産性の向上にもかかわらず、配当や賃金は大きくは上昇していません。このセミナーでは、アベノミクスの第三の矢の目玉となる改革、より効率的なガバナンス構造、法人税改革を含む、企業部門の活性化に向けた方策について議論します。

2014年5月30日（金）

午前 10:00 - 午前 11:30

帝国ホテル3階 富士の間

- 10:00a.m. **開会の言葉**
李 昌鏞 (イ・チャンヨン) 国際通貨基金アジア太平洋局局長
- 10:05a.m. **開会挨拶**
古澤 満宏 財務省財務官
- 10:15–10.45a.m. **企業投資、貯蓄、税について考える**
ルード・デ・ムージョ 国際通貨基金財政局課長補佐
ジョバンニ・ガネリ 国際通貨基金アジア太平洋地域事務所シニアエコノミスト
- 10:50–11:30a.m. **「中立」から「加速」への移行: 日本企業の復活に向けて**
モデレーター ウィリアム・ペサック (ブルームバーグ)
伊藤 元重 東京大学大学院経済学研究科教授
松本 大 マネックスグループ 代表執行役社長 CEO
菅野 雅明 JP モルガン証券 経済調査部長・チーフエコノミスト・
マネージングディレクター
ステファン・ダニンジャー 国際通貨基金 アジア太平洋局日本担当課長